

学生大使 実施報告書

氏名:佐藤風紗

学部・学科(コース)・学年:工学部・建築・デザイン学科

派遣先大学:新モンゴル学園

派遣期間:2025/02/26~2025/03/11

1 日本語教室での活動内容

日本語教室ではパワーポイントを用いて「日本の若者の出会い」や「日本のおすすめの場所」について発表しました。発表を聞く学生の日本語レベルに合わせて、スライドの文字にふりがなを付けてできるだけ写真を多くしたり、英語交じりの日本語で説明したりと自分なりの工夫を活かせたと思います。また適宜に動画を入れ学生の興味を惹きつけ、「モンゴルではどうですか」などの問いかけをすることでプレゼンテーション中のコミュニケーションを図りました。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室外での活動は高校生とグループで対話をしたり、小学生の授業見学をしたりしました。高校生との対話は緊張しましたが、日本のアニメなどの共通の話題で盛り上がることができました。また新モンゴル学園の授業のレベルがとても高いと実感しました。小学生の英語の授業は All English でどの学生も積極的に手を挙げて発言していました。日本の教室と異なると感じたことは、少人数であること、机がなく椅子だけで他の学生との距離が近いこと、歌や物語絵本、体を動かしながら楽しく授業をしていることだと思いました。私は小学生の頃発言するのになかなか勇気がいるなど感じていましたが、新モンゴル学園の教室のように先生も生徒も距離が近い環境がとても素敵だなと思いました。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私のモンゴルに派遣されるにあつたでの参加目標は「ホームステイでモンゴルの暮らしや文化を学ぶ」ことでした。この目標の達成度は100%であると考えます。今回、モンゴルの旧正月「ツアガンサル」をホストファミリーと共に過ごしました。ツアガンサルでは、ホストファミリーの実家に帰省し、モンゴルの民族衣装デールを着る、料理を手伝っておもてなしをする、生活水を犬と共に汲みに行く、従兄弟達にモンゴルの遊びを教えてもらう、馬に乗る。などツアガンサルでなければ体験できないような貴重な体験を沢山させていただきました。親戚の方とはモンゴル語という言語の壁がありながらも、自分から進んで手伝いをしたり、少しでもホストファミリーの通訳無しのコミュニケーションを取ろうと努力したりしました。

4 プログラムに参加した感想

私はこの学生大使派遣プログラムに「なんとなく面白そうだから」という理由で参加しましたが、思い切って参加してみて大正解でした。とにかく毎日が忙しくて楽しくて、新しい発見の連続でした。その

【学生大使 実施報告書】

中でも一番印象に残っているのはやはりツアガーデンサルでの思い出です。道なき道をレクサスで駆け抜けて、ホストファミリーの親戚の家を周り、モンゴルの料理をたくさん食べて、お風呂に入らず床に就く。日本でぬくぬくと生活していた大学生の私にとってはとても刺激的な日々でした。水道が通っていない地域でどのように生活するのか、太陽に向かってミルクやお酒をまき散らす儀式、年上の方との挨拶の仕方、初めて見る斬新なトイレ、その他沢山のことを見て聞いて体験して学んできました。ツアガーデンサルが終わった後は他の日本人学生がどのように過ごしたのか情報をシェアし、モンゴルの家庭の違いも知ることができてとても楽しかったです。全てこのプログラムがホームステイでなかったら得られなかった体験ですので、この学生大使派遣プログラムという講義にとても感謝しています。ありがとうございました。

また私は建築・デザイン学科に所属しており、ゲルを見ることとモンゴルの建築を見ることも目標としていました。教科書でしか見たことのなかったゲルを見た時は、イメージ通りで何だか安心しました。ゲルの一つ一つの部品の名前や組み立て方など気になっていたことがたくさん知れてとても学びにつながりました。また、新モンゴル学園の学校見学を通して、ユニバーサルデザインの面に関しては日本の建築が優れていると感じましたが、新モンゴル学園には学生のお昼寝スペースがあったため日本の学校に勝るデザインなのではないかと思いました。そのスペースもただの寝床ではなく、心地よく光が入る廊下の行き止まりスペースを利用してクッションだけおいていたり、そのクッションも中身がリユースされた服だったり、参考になる点がたくさんありました。山形大学の学生は空きこまに行き場を無くして図書館で寝ていると聞いたことがありますので、ぜひ山形大学にもお昼寝スペースを作ることをどうぞご検討宜しくお願い致します。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を踏まえて、私は新しい目標が三つできました。

一つは「誰かを喜ばすことに尽くすこと」です。モンゴルでの生活を通して、ツアガーデンサルや国際女性デーなど様々なイベントがありました。ツアガーデンサルではたくさんの親戚の方々が訪れましたが、来る人皆に料理をもてなし一人一人にプレゼントを配っていたり、国際女性の日では街行く人々が皆誰かへ向けての花束を持ち歩いていたいたりしてとても心が温かくなりました。私も周りにいる人やお世話になっている人にもっと感謝を伝えるためのアクションを起こそうという気持ちが持てました。

二つは「適度にてきとうに生きること」です。モンゴルの学生と過ごしてモンゴル人はかなり時間にルーズなことが分かりました。私を含め日本人学生もそれにつられだんだんルーズになっていく光景が興味深かったです。また、モンゴルで働いている人は常にスマホをいじっていたり、ビデオ通話していたりと日本では中々ない光景に驚きましたが、日本ももう少しラフに働いても良いのではないかと思います。私は人に迷惑をかけない範囲でこれからの人生を適度にてきとうに生きていきたいと思っています。

三つは「勉強をすること」です。ホームステイ初日はホストファミリーの小学生と幼稚園の子供が深夜一時まで勉強していたことに肝を抜きました。とにかくモンゴルの学生は勉強量が多くとても賢いということを様々な場面で実感しました。私は大学受験が終わってから、何かを本気で勉強することがなくなっていたため危機感を持ちました。モンゴルでの学生大使派遣プログラムを通して、他の国にも行ってみたいと思うようになったので、まずは英語を流暢に話せるように勉強したいです。

6 現地での活動写真

写真1

ツアガーデンサル



写真2

乗馬



写真 3

ゲルのレストラン



写真 4

一期一会

